

授業 科目名	解剖学 (Anatomy)	履修年次:	単位数: 2単位 30時間	担当教員名: 加瀬 政彦 (医師) (研究室 教育棟 A210)
		必修: 歯1年	コード:DHB101	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕Ⅲ 実践に必要な知識				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 人体の細胞・組織および器官・器官系の階層性を体系的に理解し、それぞれの構造を機能と関連付けて説明できるようになることを目的とする。				
〔授業の概要〕 人体の形態や構造とその成り立ちを学び、全身の正常な機能を理解することは、歯科衛生士が修得すべき基礎ならびに臨床専門科目の基盤となるのみならず、全身疾患を有する患者の病態を理解するうえでもかかせない。この科目では、細胞から組織、器官、器官系へと連なる階層性に着目して構造的特徴を学び、それらが恒常性維持のための特有な機能をもつことを理解できるように授業を進めていく。				
キーワード: 細胞・組織・器官、神経系と運動器、呼吸と循環、消化吸収と排泄、生殖と発生				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内 容	
第1回	4/9	総論	人体の構成と区分、細胞および組織の構造と機能	
第2回	4/16	骨格系	骨組織、骨の形状と構造、連結、主要骨格	
第3回	4/23	筋と運動	筋の構造と筋収縮のしくみ、主要骨格筋、運動と反射	
第4回	4/30	神経系1	神経の興奮と伝導、中枢神経系、髄膜、脳の血管	
第5回	5/7	神経系2	脳神経、脊髄神経、自律神経系、神経伝導路	
第6回	5/14	感覚器	外皮、体性感覚、特殊感覚器の構造と機能	
第7回	5/21	呼吸器系	呼吸器の構造、ガス交換と呼吸調節	
第8回	5/28	循環器系	心臓の構造と機能、体循環と肺循環、血管の構造と機能、動静脈系	
第9回	6/4	血液	血液の成分、血液凝固・線溶系、血液型	
第10回	6/11	消化器系1	消化管の構造と機能	
第11回	6/18	消化器系2	肝・胆・膵の構造と機能	
第12回	6/25	排泄	尿の生成と排尿、排便、発汗、不感蒸泄	
第13回	7/2	内分泌系	恒常性維持のしくみ、内分泌腺の構造と機能、体温	
第14回	7/9	生殖	生殖器の構造と機能、性周期、発生、成長	
第15回	7/16	まとめ	授業全体を通じたまとめ	
履修条件		特になし		
予習・復習		事前にテキストを熟読して予習のこと。復習には配布資料やノートの見直しを推奨。		
テキスト		歯科衛生学シリーズ「人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学」、医歯薬出版		
参考書・参考資料等		「ぜんぶわかる人体解剖図」橋本尚詞、成美堂出版		
学生に対する評価		定期試験 (70%)、日ごろの学習態度 (30%) により、総合的に評価する		

授業 科目名	生理学 (Physiology)	履修年次:	2 単位数:30 時間	担当教員名: 田崎 雅和 [歯科医師] (研究室 非常勤講師室)
		歯 1 年	コード:DHB102	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕Ⅲ 実践に必要な知識 Ⅵ 多職種との協働				
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
各臓器や組織の生理的調節機能についての知識を得る。生体の恒常性(ホメオスタシス)を維持するために、動物性機能と植物性機能との調節機構により生命体を維持している基本的な知識を学び、生体の機能・調節機構を理解し説明できる。				
〔授業の概要〕				
人体に生じるさまざまな生命現象の機構を物理学的手法で論理的に理解し、それを説明できることは歯科衛生士にとり重要である。一般目標は生体の顎、口腔、顔面領域の機能を理解するために生命体の各器官系の調節維持機構を論理的に説明できることを習得する。行動目標は器官系の機能を理解し説明できる。方略は講義形式。担当者は東京歯科大学・生理学講座・教授として生理学・口腔生理学の講義および実習を行った実務経験により、生理学に関する学習の支援を行う。				
キーワード: 動物性機能、植物性機能、神経性調節、液性調節				
〔授業計画〕				
回 数	日付	テ ー マ	内 容	
第 1 回	10/6	ガイダンス	生理学総論	
第 2 回	10/20	細胞の基本的機能	細胞膜の透過性と細胞の電気現象	
第 3 回	10/27	筋細胞と神経細胞	筋細胞と神経細胞の組織・構造	
第 4 回	11/10	神経細胞の機能	興奮伝導、シナプス構造とシナプス伝達	
第 5 回	11/17	末梢神経系	体性神経系と自律神経系	
第 6 回	12/1	中枢神経系	中神経系の機能	
第 7 回	12/8	筋細胞の機能	興奮収縮連関、収縮様式	
第 8 回	12/15	消化・吸収	消化液の分泌と消化管の運動、消化管ホルモン	
第 9 回	12/22	循 環	血液と血液凝固、心機能と心電図	
第 1 0 回	1/5	呼 吸	呼吸器と胸郭、換気量と呼吸中枢	
第 1 1 回	1/19	感 覚	体性感覚と特殊感覚	
第 1 2 回	1/26	排 泄	腎の機能と内分泌、尿の生成と排尿	
第 1 3 回	1/28	体 温	体熱産生と放散、体温調節機構	
第 1 4 回	2/2	内分泌	内分泌器官と内分泌	
第 1 5 回	2/3	内分泌と生殖	性ホルモン、性周期と体温	
履修条件		生物学を既に習得済みであることが望ましい。		
予習・復習		予習; 授業テーマを把握する。復習; 授業で示した教科書の図を理解する。		
テキスト		人体の構造と機能 1 解剖学・組織発生学・生理学 (最新 歯科衛生士教本 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版刊)		
参考書・参考資料等		イラストでわかる歯科医学の基礎 (監修; 浜端 孟、祖父江 鎮雄、谷 明、西村 康 永末書店刊)		
学生に対する評価		国家試験形式による客観試験(90%)と学習態度(10%)による総合評価		

授業 科目名	授業科目名： 内科学概論 (Internal Medicine)	必修：歯1年	1単位 15 時間	担当：太和田暁之 [内科医師] (研究室：図棟9)
			コード：DHB103	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕Ⅲ 実践に必要な知識, Ⅰ 倫理観とプロフェッショナリズム, Ⅶ 生涯にわたる探究心と自己研鑽				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 この講義では主要な内科疾患の病態、診断・検査法、治療法の概要を学修し、口腔衛生と全身性疾患の関連を理解し、安全で効率的な歯科口腔管理を行うために必要な内科学の概要修得を目標とする。以下をテーマとして扱う。 ①代表的内科疾患の概要を説明できる。 ②歯科保健衛生管理上留意すべき内科疾患、内科治療について説明できる。				
〔授業の概要〕 歯科衛生学の学習に際しては主要な疾病の理解が求められる。そこで、この授業では講義形式により、主要な内科疾患について口腔疾患と内科疾患との関連をふまえた観点から教授する。講義では、主要な内科疾患における病態、診断・検査法、治療法について学習する。本講義では、様々な内科疾患の概要を総合的に学習することにより、内科疾患を背景とした場合の歯科衛生の理解を増すことを目的とする。内科医師の実務経験により、学習の支援を行う。 キーワード：内科学、歯科口腔衛生、歯周病、糖尿病、誤嚥性肺炎				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内 容	
第1回	10/1	内科学の基本的考え方	疾病の考え方、内科からみた歯科・口腔衛生など	
第2回	10/8	感染症1	感染症総論、歯周病と全身への影響	
第3回	10/15	感染症2	嚥下性肺炎、ヒコリ菌感染症	
第4回	10/22	感染症3	ウイルス性肝炎、肝硬変症、HIV	
第5回	10/29	代謝性疾患	糖尿病・糖代謝異常	
第6回	11/5	循環器疾患	心不全、虚血性心疾患、不整脈の概要	
第7回	11/12	低栄養、消化器疾患	低栄養、サルコペニア、オーラルフレイル	
第8回	11/19	総まとめ		
履修条件		特になし		
予習・復習		復習として教科書や配布レジュメの見直しを推奨		
テキスト		なるほどなっとく！内科学（南山堂）		
参考書・参考資料等		病気がみえるシリーズ（MEDIC MEDIA）		
学生に対する評価		定期試験 80% 課題の提出状況 20%		

授業 科目名	授業科目名： 高齢者医療論 (Gerontology)	必修：歯2年	1単位 15 時間	担当：太和田暁之 [内科医師] (研究室：図棟9)
			コード：DHB203	
	実務経験のある教員による授業科目			
〔DP〕Ⅲ 実践に必要な知識,Ⅰ 倫理観とプロフェッショナリズム,Ⅶ 生涯にわたる探究心と自己研鑽				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 この授業では高齢者の健康維持や疾病治療の特殊性をふまえた観点から教授し、高齢者の口腔衛生管理や指導を安全かつ効率的に行う基盤を作ることを目的とする。学生に求める目標は以下の通りである。 ① 高齢者における口腔衛生管理の重要性を説明できる。 ② 高齢者に頻度の高い疾患を挙げ、治療薬も含め、歯科診療に及ぼす影響について説明できる。				
〔授業の概要〕 高齢者にとって栄養の管理や口腔内の衛生は、疾病の治療や生活の維持に極めて重要である。そこで、この授業では講義形式により、高齢者における身体機能の変化や疾病の特徴について高齢者の健康維持や疾病治療の特殊性をふまえた観点から教授する。講義では、老化に伴った身体機能の変化、老化が関連する疾病の病態や対策を学習する。本講義では、このような学習をとおして、高齢化社会で求められる歯科衛生を理解することを目的とする。内科医師の実務経験により、学習の支援を行う。				
キーワード: 老化、加齢、老年病、高齢者医療、オーラルフレイル				
〔授業計画〕				
回 数	日付	テ ィ マ	内 容	
第1回	10/2	高齢者疾病総論	高齢化社会の現状と将来の問題点	
第2回	10/9	老化とは	加齢による口腔衛生状態・身体機能の変化	
第3回	10/16	老化と疾病総論	老年症候群、高齢者に多くみられる症候	
第4回	10/23	高齢者の疾病各論1	高齢者に頻度の高い中枢神経疾患1	
第5回	10/30	高齢者の疾病各論2	高齢者に頻度の高い中枢神経疾患2	
第6回	11/6	高齢者の疾患各論3	高齢者に頻度の高い心・血管病変	
第7回	11/13	高齢者の薬物療法	治療薬の概要・副作用と歯科診療	
第8回	11/20	総まとめ		
履修条件		特になし		
予習・復習		復習として教科書や配布レジメの見直しを推奨		
テキスト		老年学 標準理学療法学・作業療法学シリーズ 医学書院		
参考書・参考資料等		病気がみえるシリーズ メディックメディア		
学生に対する評価		定期試験 80% 課題の提出状況 20%		

授業 科目名	口腔解剖学 (Oral Anatomy)	履修年次:	単位数:2 単位 30 時間	担当教員名:
		必修:歯 1 年	コード: DHB201	科目責任者:
		実務経験のある教員による授業科目		阿部 伸一〔歯科医師〕 廣内 英智〔歯科医師〕 (非常勤講師室)
〔DP〕Ⅲ 実践に必要な知識,Ⅵ 多職種との協働,Ⅶ 生涯にわたる探求心と自己研鑽				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 歯科衛生士の役割を的確に果たすために、顎・顔面・口腔・歯の形態および構造を理解することを目的とし、①顎・顔面の骨・筋・神経・脈管・口腔内臓および摂食・嚥下の解剖 ②歯の形態 ③歯・歯周組織の構造および発生について学ぶ。				
〔授業の概要〕 歯科衛生士が対象とする顎・顔面・口腔および歯の形態と組織構造を学ぶことにより、歯科予防処置・歯科診療補助・歯科保健指導などの臨床において理論的な裏付けに基づき理解することを目的とする。 (本授業はオムニバス方式により行い、主に廣内 英智が担当するが、摂食・嚥下の解剖については実務経験に基づき阿部 伸一が担当する。)				
キーワード: 頭頸部の解剖、永久歯の形態、乳歯の形態、歯・歯周組織の構造、摂食・嚥下				
〔授業計画〕				
回 数	日付	テ ー マ	内 容	担当
第 1 回	4/14	骨 (1)	頭蓋を構成する骨	廣内 英智
第 2 回	4/21	骨 (2)	上顎骨・下顎骨	廣内 英智
第 3 回	4/28	筋 (1)	顎・顔面の筋 (咀嚼筋・表情筋)	廣内 英智
第 4 回	5/12	筋 (2)、脈管	顎・顔面の筋 (舌骨上筋群)、分布する脈管	廣内 英智
第 5 回	5/19	神経	脳神経 12 対	廣内 英智
第 6 回	5/26	骨学演習	骨学の復習	廣内 英智
第 7 回	6/2	中間試験	筆記試験および骨を対象とした試験	廣内 英智
第 8 回	6/9	口腔内臓	唾液腺・舌	廣内 英智
第 9 回	6/16	永久歯の形態 (1)	永久歯総論、前歯の形態	廣内 英智
第 1 0 回	6/23	永久歯の形態 (2)	臼歯の形態	廣内 英智
第 1 1 回	6/30	乳歯の形態 (1)	乳歯総論、乳前歯の形態	廣内 英智
第 1 2 回	7/7	乳歯の形態 (2)	乳臼歯の形態	廣内 英智
第 1 3 回	7/14	歯の発生	歯の形成過程	廣内 英智
第 1 4 回	7/23	総復習	口腔内臓、歯の形態などに関する総復習	廣内 英智
第 1 5 回	7/28	摂食・嚥下の解剖	摂食・嚥下に関与する筋・神経	阿部 伸一
履修条件		1 年前期の解剖学総論を履修		
予習・復習		予習としてテキストを熟読のこと。復習はノートおよび配布資料の見直しを推奨		
テキスト		①「歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」一般社団法人 全国歯科衛生士教育協議会 監修、医歯薬出版 ②「全身骨学 学習サイドノート」阿部 伸一 著、わかば出版 ③「口腔顎顔面解剖ノート 第2版」井出 吉信ら 著、学建書院		
参考書・参考資料等		指定しない。講義の中で適宜紹介する。		
学生に対する評価		中間試験 (50%)、定期試験 (50%) により、総合的に評価する。		

授業 科目名	口腔生理学 (Oral Physiology)	履修年次:	1 単位数:15 時間	担当教員名: 田崎 雅和 [歯科医師] (研究室 非常勤講師室)
		歯 2 年	コード:DHB202	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕Ⅲ 実践に必要な知識 VI 多職種との協働				
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
口腔で生じるさまざまな生命現象の機構を物理学的手法で論理的に理解し、それを説明できることは 歯科衛生士にとり重要である。一般目標は生体の口腔、顎顔面領域の機能を理解するために咀嚼器官系 の正常な働きについての知識を得る。生理学で学んだ基礎知識をもとに口腔で生じる生命現象の機構を 論理的に説明できることを目標に以下を習得する。行動目標は口腔器官系の機能および機構を理解し説 明できる。方略は講義形式。担当者は東京歯科大学・生理学講座・教授として生理学・口腔生理学の講 義および実習を行った実務経験により、口腔生理学に関する学習の支援を行う。				
〔授業の概要〕				
人体に生じるさまざまな生命現象の機構を物理学的手法で論理的に理解し、それを説明できることは 歯科衛生士にとり重要である。一般目標は生体の顎、口腔、顔面領域の機能を理解するために生命体の 各器官系の調節維持機構を論理的に説明できることを習得する。行動目標は器官系の機能を理解し説明 できる。方略は講義形式。担当者は東京歯科大学・生理学講座・教授として生理学・口腔生理学の講義 および実習を行った実務経験により、生理学に関する学習の支援を行う。				
キーワード: 口腔感覚、咀嚼、顎反射、唾液、発音				
〔授業計画〕				
回 数	日付	テ ー マ	内 容	
第1回	6/17	感 覚	口腔感覚を理解するための感覚	
第2回	6/24	口腔感覚	歯と口腔組織の感覚	
第3回	7/1	特殊感覚	嗅覚と味覚・味覚異常・味覚検査	
第4回	7/8	咬合と咀嚼	下顎位と下顎運動、下顎限界運動と筋電図	
第5回	7/15	顎反射	筋紡錘と顎反射	
第6回	7/22	嚥下・吸啜・嘔吐	吸啜、嘔吐、摂食・嚥下の機序	
第7回	7/24	唾液分泌と唾液の機能	唾液分泌機構と唾液の性状	
第8回	7/29	発声と発音	発生と構音器官と発音異常	
履修条件		生理学を既に習得済みであること。		
予習・復習		予習；授業テーマを把握する。復習；授業で示した教科書の図を理解する。		
テキスト		①歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学 (最新 歯科衛生士教本 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版刊)		
参考書・参考資料等		イラストでわかる歯科医学の基礎 (監修；渕端 孟、祖父江 鎮雄、谷 明、西村 康 永末書店刊)		
学生に対する評価		国家試験形式による客観試験(90%)と学習態度(10%)による総合評価		

授業 科目名	口腔病理学 (Oral pathology)	履修年次: 必修: 歯1年	単位数: 1 単位 15 時間 コード: DHB104	担当教員名: 酒巻裕 裕之[歯科医師] (研究室 A408)
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕Ⅲ 実践に必要な知識				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 歯科疾患の病理学的知識をもとに歯科保健指導や予防処置ができることを目標に、顎顔面口腔領域の疾患の原因と病態の特徴を理解する。以下のテーマについて学ぶ。①歯と歯周組織の疾患、②顎骨の疾患、③唾液腺の疾患、④顎口腔領域の腫瘍				
〔授業の概要〕 病理学は、疾病を分類・記載し、その性状を究め、病因およびなり立ち方を研究する学問で、「病理学」を学んだ上で、その各論として口腔病理学を学ぶ。そこでこの授業は講義形式により、歯と歯周組織および口腔、顎骨、顔面、唾液腺ならびに頸部の疾患の原因、診断、検査などに関する病理学的知識を、視覚資料を提示しながら理解を深める。 各授業で各自が、授業内容に関する試験問題を作成するので、予習をする。また、テーマごとにポートフォリオを利用して授業の振り返りを行う。 口腔外科歯科医師の実務経験により、口腔病理学の講義および学習の支援を行う。				
キーワード: 口腔、病態、原因、病理組織検査、予後				
〔授業計画〕				
回 数	日付	テ ー マ	内 容	
第1回	10/1	ガイダンス 歯の先天異常	授業の進め方、受講に関する宇ウイ事項など 歯の先天異常	
第2回	10/8	齲蝕 歯髄の疾患	齲蝕症、歯髄炎、根尖性歯周炎	
第3回	10/15	歯周組織の疾患	辺縁性歯周炎	
第4回	10/22	口腔組織の治癒 顎骨の疾患	口腔組織の治癒 骨髄炎、骨折	
第5回	10/29	嚢胞 腫瘍総論	顎骨内、軟組織内の嚢胞 腫瘍総論	
第6回	11/5	悪性腫瘍、良性腫瘍	良性腫瘍、悪性腫瘍、歯源性腫瘍、非歯源性腫瘍	
第7回	11/12	腫瘍類似疾患 唾液腺疾患	口腔潜在性悪性疾患、腫瘍類似疾患、唾液腺疾患	
第8回	11/19	まとめ	授業全体を通したまとめ	
履修条件		特になし		
予習・復習		予習としてテキストを熟読のこと。復習ではポートフォリオをまとめる。		
テキスト		歯科衛生学シリーズ「疾病の成り立ち及び回復過程の促進 1 病理学・口腔病理学」国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版刊		
参考書・参考資料等		サクシント カラーアトラス口腔外科学 第4版 山内健志他編 学建書院刊 スタンダード口腔病態病理学 第2版 賀来 亨 他編 学建書院刊		
学生に対する評価		定期試験 75%、課題 15%、学習態度 10%により、総合的に評価する。		

授業 科目名	口腔微生物学 (Oral Microbiology)	履修年次	1 単位 15 時間	担当教員名: 科目責任者 石原 和幸 米澤英雄、国分栄仁 (非常勤講師室)
		必修: 歯 1 年	コード: DHB105	
	実務経験のある教員による授業科目			
〔DP〕Ⅲ 実践に必要な知識, Ⅳ 健康づくりの実践, Ⅶ 健康づくりの環境の整備・改善				
〔授業の到達目標及びテーマ〕本授業では、歯科衛生士に必要な感染症に対する知識を獲得することを目標に、以下のテーマで講義を進めていく				
1. 齲蝕、歯周炎をはじめとする口腔感染症の病原体について説明できるようにする。				
2. デンタルプラークバイオフィルムの特性を把握し、歯科医療現場において処置するための基本を理解する。				
3. 口腔疾患が全身の健康に与える影響を理解する。				
〔授業の概要〕齲蝕、歯周炎といった歯科疾患を理解するためには、多数の菌種から構成されるデンタルプラークというバイオフィルムを理解することが求められる。そのため、バイオフィルムの特性を理解し、自らその対応について考察し、理解することを目標としている。さらに、齲蝕と歯周病については、バイオフィルムを構成している菌種のうち病因と考えられる菌種についてその病原性について理解し、臨床において対応できるようにする。さらに、口腔疾患が全身の健康に与える影響を把握し、口腔の健康が「健康長寿」の基盤であることを理解し、その推進リーダーとしての歯科衛生士の自覚を持てるように取り組んでほしい。				
キーワード:デンタルプラーク、バイオフィルム、齲蝕病原菌、歯周病原菌、口腔ケアの細菌学				
〔授業計画〕				
回 数	日付	テ ー マ	内 容	
第1回	11/19	口腔環境	口腔環境の特性・口腔内免疫機構	
第2回	11/26	口腔常在微生物 バイオフィルムとしての プラーク	口腔常在微生物 デンタルプラークの特性について プラーク形成過程・バイオフィルム感染症	
第3回	12/3	齲蝕の細菌学	ミュータンスレンサ球菌群の齲蝕病原性 病因論に基づく齲蝕予防	
第4回	12/10	歯科に関連する感染症	歯科に関するウイルス、真菌、原虫、プリオン	
第5回	12/17	歯周炎の細菌学	歯周炎の分類、歯周病原細菌	
第6回	1/7	その他の口腔感染症	歯周病の全身への悪影響について (ペリオドンタルメディシン)	
第7回	1/14	口腔ケアの細菌学	バイオフィルムの機械的除去と化学的口腔清掃の意義について	
第8回	1/21	まとめ	授業全体を通じたまとめ	
履修条件		3 分の 2 の授業を受けることを原則とする		
予習・復習		予習としてテキストの該当分野を読んでおくこと。復習にはノートの見直しを推奨。		
テキスト		「最新歯科衛生士教本 疾病の成り立ち及び回復過程の促進 2 微生物学」医歯薬出版		
参考書・参考資料等		指定しない。授業の中で適宜紹介する		
学生に対する評価		1. 第3回講義後にミュータンスレンサ球菌群に対するレポートを課す。 2. 筆記試験を試験期間内に実施する。(レポート 20%, 筆記試験 80%)		

授業 科目名	歯科薬理学 (Dental Pharmacology)	履修年次	1 単位 15 時間	担当教員名: 科目責任者 三枝 禎【歯科医師】 石毛 久美子【薬剤師】 (非常勤講師室)
		必修: 歯 2 年	コード: DHB208	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕Ⅲ 実践に必要な知識				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 本授業では薬物の管理の基礎を知ると共に、歯科で使用される代表的な薬物の作用が起こる仕組みを説明できるようになることを目標とする。また、安全で有効な歯科治療の実践に貢献できるようになるため、歯科以外で処方される薬物の作用の特徴について理解することを目指す。				
〔授業の概要〕 専門基礎科目の「薬理学」で学んだ知識をもとに、歯科と他科で用いる薬物の作用の特徴について理解を深め、臨床で役立つように身につける。本授業はオムニバス方式により行い、薬物の取扱い、薬物動態、全身・局所麻酔薬、抗炎症薬、鎮痛薬、血液に作用する薬、化学療法薬については薬学の薬理学教育・研究の実務経験に基づき石毛久美子が、消毒薬、歯科疾患の回復を促す薬物については歯学の薬理学教育・研究の実務経験に基づき三枝禎が担当する。				
キーワード: 麻酔薬、抗炎症薬、止血薬、抗血栓薬、化学療法薬、消毒薬				
〔授業計画〕				
回 数	日付	テ ィ マ	内 容	担当
第 1 回	4/15	薬物の取扱い 薬物動態	薬物の保存方法、薬物と法律 吸収、分布、代謝、排泄	石毛 久美子
第 2 回	4/22	抗炎症薬、鎮痛薬	炎症と薬、痛みと薬	石毛 久美子
第 3 回	5/13	血液に作用する薬	止血薬、抗血栓薬	石毛 久美子
第 4 回	5/20	化学療法薬 (1)	悪性腫瘍と薬	石毛 久美子
第 5 回	5/27	化学療法薬 (2)	抗感染症薬 (1)	石毛 久美子
第 6 回	6/3	化学療法薬 (3), 消毒薬 (1)	抗感染症薬 (2)、消毒薬の作用機序と分類 (1)	石毛・三枝
第 7 回	6/10	消毒薬 (2), 歯科疾患の回復を促す薬物	消毒薬の作用機序と分類 (2)、歯内療法薬、歯科疾患治療薬	三枝 禎
第 8 回	6/17	全身麻酔薬、局所麻酔薬	作用機序、分類、適用	石毛 久美子
履修条件		薬理学を履修したもの。		
予習・復習		授業計画に基づきテキストで予習する。配布資料・ノートを見直して復習する。		
テキスト		疾病の成り立ち及び回復過程の促進 3、薬理学（最新歯科衛生士教本、全国歯科衛生士教育協議会監修、医歯薬出版刊）の他、適宜配布するプリント。		
参考書・参考資料等		専門基礎 疾病のなりたちと回復の促進[3]「薬理学」 (医学書院刊)		
学生に対する評価		定期試験の成績 (90%)、各講義における小テストを含む授業態度等 (10%) により、総合的に評価する。		

授業 科目名	口腔生化学 (Oral Biochemistry)	履修年次:	1 単位 15 時間	担当教員名: 平塚 浩一 [歯科医師] (非常勤講師室)
		必修: 歯 1 年	コード: DHB107	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕Ⅲ 実践に必要な知識,Ⅳ 健康づくりの実践,Ⅶ 生涯にわたる探究心と自己研鑽				
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
本授業では、口腔内の硬組織（歯や歯槽骨）、軟組織（歯肉や歯根膜）、および唾液の成分とその働きと、口腔は感染・感染防御の最前線であることを理解することを目標に、以下のテーマで講義を進める。 ① 硬組織および軟組織の構成成分と特徴,② 唾液成分とその機能,③ 炎症の成立と宿主反応,④ う蝕と歯周病の成り立ち				
〔授業の概要〕				
超高齢化社会を迎える日本の医療は今後「予防」が益々重要となる。口腔は多くの感染症の入り口であることから歯科衛生士は、予防医療のプロフェッショナルとして、口腔に関連する知識を十分に理解し臨床の場で役立てる必要がある。担当教員は歯科医師であり、かつ、日本大学松戸歯学部の生化学・分子生物学講座教授、および当学部の附属歯科衛生専門学校長として、歯学部、衛生専門学校、および看護専門学校の講義・実習の実務経験を通して、歯科衛生士コアカリキュラムに準じた学習支援を行う。				
キーワード: 細胞外基質と骨代謝, 硬組織, う蝕, 歯周病, 唾液				
〔授業計画〕				
回 数	日付	テ ィ マ	内 容	
第 1 回	11/19	人体の構成成分	炭水化物・脂質・タンパク質の特徴	
第 2 回	11/26	細胞外基質	主な細胞外基質の特徴	
第 3 回	12/3	骨代謝	骨芽細胞と破骨細胞による骨リモデリングと骨粗鬆症	
第 4 回	12/10	歯の硬組織と唾液成分	歯や唾液の構成成分とその特徴	
第 5 回	12/17	血 液	血液成分の特徴（緩衝作用, 血液凝固機序など）	
第 6 回	1/7	中間試験, 炎 症	第 1 ～ 5 回の中間試験, 炎症の成り立ちとアポトーシス	
第 7 回	1/14	う 蝕	う蝕および菌体外多糖形成の機序	
第 8 回	1/21	歯周病	歯根膜・歯肉の代謝の特徴と歯周病の成り立ち	
履修条件		特になし。		
予習・復習		授業はプリントへの書き込みに集中し、当日中に復習すること。不明な点は講義担当者にメールで尋ねること。		
テキスト		特に指定なし		
参考書・参考資料等		スタンダード生化学・口腔生化学（荒川ら）学建書院		
学生に対する評価		中間試験（第 1 ～ 5 回 ; 50 問）と定期試験（6 ～ 8 回 ; 30 問）を合わせた 8 0 問の正答率が 6 0 %以上の者を合格とする。		